

へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



令和2年度札幌校へき地校体験実習実習報告会を開催 へき地・小規模校での新鮮な雰囲気を経験

札幌校へき地教育アドバイザー 加藤 雅子

【全学校の実習、無事終了の感謝】

10月30日(金)、今年度の「札幌校へき地校体験実習」の報告会が行われました。

コロナ禍の中、当初は実習そのものを行うことができるかどうか心配されましたが、11校で28名の学生が無事に実習を行うことができました。

体調管理や感染症対策など、例年にはない心配も大きい中でしたが、受入校や各教育委員会の協力はもとより、関係各位の理解や支援をいただいたことに感謝いたします。なお、今回の実習生の半分が「草の根教育実習」に応募しており、へき地教育にも強い関心をいただいている学生が多いことが分かります。



札幌校でへき地校体験実習について報告する学生

【少人数の新鮮な雰囲気を実感】

学生の報告では、ICTの活用、少人数の人間関係づくり、異年齢集団、一人一人に対応した授業、教職員の協働性、カリキュラムの柔軟性、地域とのつながり、共同生活の特徴、などが新鮮な経験として、受けとめられていました。

【実習受入校もZoomで報告会に参加！】

報告会は対面で実施することができましたが、Zoomでも参加できる形をとりました。実習受入校にもZoomで参加を呼び掛け、何校かが参加してくれたのも学生にとって大きな励みになったようです。



開会式で、へき地校体験実習に期待することについて、挨拶する玉井康之センター長

発表を通して印象的だったこと、共通してしばしば発表されていた点をいくつか挙げてみます。

小規模校は教職員数も少ないが、お互いを尊敬し合い、**協働して校務を推進**している。

教師と子ども **一人一人のつながりが深く**、信頼関係を築くことが大切である。

複式の授業は思ったより難しく、事前の準備が重要であると感じた。

地域とのつながりが深く、様々な取り組みに地域の教育力が反映されている。

ICTの活用が盛んである。

実習報告会で学生たちが発表のため作成したプレゼンの資料

初山別小学校での実習

学校の雰囲気

- ・非常に礼儀が正しい!
- ・学年問わず皆仲良し!
- ・先生同士のチームワークが強い!

(Tシャツお揃い!)



浅茅野小学校での実習

授業の様子

少人数指導



ICTを活用した授業



萱野中学校での実習

4.学んだこと・感想

- ・学んだこと
生徒理解の大切さ
→少しでも長い時間子どもたちと関わり、コミュニケーションを取る
へき地・小規模校の良さ
→丁寧な指導、地域・学校・家庭のつながりなど 山ほどあり!
- ・感想
教師の魅力
→たしかに大変な面もあるが、やりがい素晴らしさを感じることができた
感謝
→大都市では経験できない貴重な体験ができたのには、地域の方や先生方
など多くに方々の支えがあった

多寄小学校での実習

実習を通して学んだこと

- ・子ども達と仲良くなるにはどうすればよいのかを学んだ
- ・特に学級経営をしなければならない小学校では、教師と児童の信頼関係を築くことは大切であることを学んだ

少人数ならではの教師と児童の距離感

- 大規模な学校より一人一人に時間をかけられる
- 強固な信頼関係があるように感じた

一人一人に時間をかけられる
メリット、強固な信頼関係

子どもと長い時間
関わった時、見え
てくる児童理解の
大切さ!

日高小学校での実習

実習を終えての感想

複式学級の授業はとても難しいと感じた。わたりやずらしも指導案の中ではできていても、実際の授業で少しでもイレギュラーがあると、指導案が崩れ去っていった。そのイレギュラーも想定して授業づくりをしなくてはいけない。授業は厳しかったが、子どもとの関わりは非常に楽しかった。人が少ないからこそ、1人1人と濃く関わることができ、児童のことを深く知ることができて良かった。先生方も親切な人ばかりで、教師の仕事について、多くのことを教えていただいた。この実習で学んだことを活かして、これからも努力したい。

先生方が仲がいいことは、
すごい!

【子どもたちと密接にかかわることによる教職の喜び】

また、授業づくりに関わって、教師の研究討議に参加させてもらった学校もあり、大きな学びとなったようです。そして、子どもたちと密接にかかわったことで、「教職に就きたい」という意欲は、一層高まったようです。学生たちは、教職の本当の魅力を感じ取ることができるようです。



初山別小学校の発表。校内研に参加した時の様子

学校での実習のみならず、地域の宿舎での共同生活についても、「大変だったけれども、皆で協力し合って思い出に残る体験となった。」、「(2年生は)4年生と一緒に実習できたことで、指導案の書き方や授業づくりなどについて学ぶことができた。」等、得難い経験を積んだ様子が報告されていました。



幌加内小学校の実習発表の様子

実習を終えて帰札する時も、子どもたちが見送りしてくれたことに感激したという報告もありました。

子どもたちに見送られて感動!! 教師になりたくなった!!

鴛泊小学校の発表。帰りのフェリーを見送る子どもたちの様子



最後に札幌校の前田賢次先生とへき研センター副センター長の川前あゆみ先生から講評を頂き、約2時間にわたる報告会を終了しました。

【学生の成長を喜ぶへき地・小規模校の先生方】

終了後、Zoomで参加した学校の校長先生から「1台のパソコンに教職員全員集まって、拝見させていただきました。みんなで楽しく参加させていただきました。」という温かなメールをいただきました。“実習して終わり”ではなく、実習後も学生の学びの成果に関心を抱いていただけたことはありがたい限りでした。



前田賢次先生からの講評の様子

コロナ禍は今年だけの事ではなく、次年度においても心配が続くことが予想されます。しかし、今年度の経験を基に、より充実した内容で実施できるよう、皆様と共に検討を積み重ねて行かなくてはならないと考えます。

前田賢次先生からは、へき地校実習の教育の原点や意義について話がありました。川前あゆみ先生からは、一人一人を大切にする少人数指導をさらに特別支援教育等へも広げて課題意識をもつこと等、新たな視点を提案して頂きました。

令和2年度 北海道教育大学 へき地体験実習協力校

29市町村 52校 実習生合計 122名

